取扱上のご注意

商品選択上のご注意

●防火性について
建築物の内装仕上げは、建築基準法により防火上の基準が定められており、建築物の用途や規模・構造に応じて防火材料の使用が義務づけられています。壁紙の防火性能は、下地基材や施工方法との組み合わせによって決まりますので、事前に必ずご確認ください。

●使用環境について
高温、高湿、水漏れの環境や屋外での使用は避けてください。

●柄合わせの必要な商品について
柄合わせを要する商品は、リピート表示のない商品よりも要尺が多くなります。なお、商品は施工糊の水分や温湿度によって伸縮するため、表示寸法と実際の商品では多少の差異が生じます。表示寸法は要尺を算出するための目安としてご覧ください。

●施工費について
商品や現場の状況によって施工費が割増になる場合があります。施工費の割増対象としては、「ボーダー」「汚れ防止」「製品厚が薄く表面がフラットな商品」 など、下地処理や施工に手間がかかる商品群です。あらかじめご確認の上、商品選択をお願い致します。

●見本・サンプル・写真について
製造ロットの違いにより、見本やサンプル帳と実際の商品が若干異なる場合があります。なお、施工例写真は、照明の影響や印刷の都合上、実物と多少違って見える場合がありますので、ご了承ください。

●壁紙の特性について
ビニル壁紙は、リピート表示のない商品でも基本的にある単位の同じ柄の繰り返しで出来ています。このため、見る角度や光の当たり方によって微妙な凹凸の繰り返しが目立つ場合があります。これは製法上の特性であり、現在の技術では完全に防ぐことはできません。また、表面の凹凸が少ない商品や横方向のテクスチャーの商品は、ジョイント部が比較的目立ちやすい傾向があります。これは、塗装と異なり、つなぎ合わせて施工する壁紙である限り避けることのできない商品特性です。あらかじめご了承ください。

●商品の仕様変更・供給について
改良その他の事情により、予告なく仕様変更を行なうことがあります。また、生産中止などにより供給不能となる場合があります。あらかじめご了承ください。

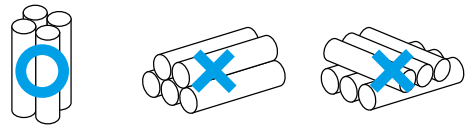
荷扱い・保管上のご注意

●無理な運搬はしない
ロール状に巻かれた壁紙は重量物となるため、人力で取り扱われる際には十分な安全確保をし、腰痛などの原因となる無理な運搬はしないでください。

●高所から落とさない
商品は、トラックの荷台などの高いところから落とさないでください。商品の破損やケガなどの危険を伴います。

●保管上の注意点
保管場所は、火気・水・湿気・直射日光を避けてください。また、商品を地面へ直に置いて保管しないでください。

●保管はタテ置きで
商品はタテ置きで保管してください。ヨコ積みや井桁積みは置き跡がつきやすく、光沢差やエンボスつぶれの原因となります。



商品受領時のご注意

●商品確認
受領時には、納品書と商品現品、ロット、数量を確認してください。万一、ご注文品と違う品番や規格外の商品が納入された場合は、購入先へご連絡ください。

●ロット違い商品について
ロット違いでは色差が生じる場合がありますので、同一ロット品を使用し、できれば一巻の至近の箇所同士を張り合わせてください。

施工上のご注意

以下の内容は、壁紙全般についてのごく一般的な注意事項です。特に注意の必要な商品については、各商品の施工要領をご参照ください。

下地の調整

●下地と同色のパテを使用
必ず下地と同色のパテをご使用ください。下地と異なる色のパテでは、施工後、下地の色が透けて見える場合があります。また、下地からの影響を防ぐために文字や汚れはきれいに落としてください。

●きれいな仕上がりは平滑な下地から
施工後の不陸を防ぐため、下地は平滑に仕上げてください。また、ネジ・クギ類は施工後の変色を避けるため、突起を完全に沈め、サビ止めをしてください。

●下地や状況に応じたシーラー処理を
ベンキ・コンクリート・モルタル・木質系下地の場合は、それぞれ専用のシーラーで必ず下地処理をしてください。特にベニヤなどの木質系下地に直接施工した場合、時間がたつとシミや変色の原因になります。シーラーは接着不良や変色を防ぎ、リフォーム時に剥がしやすくします。

●下地は乾燥させてから
コンクリートやモルタルなどの湿式下地、およびシーラー、パテを施した箇所は十分に乾燥（目安として水分率11％以下）してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・カビが発生することがあります。

●オイルステインなどの下地は避ける
オイルステイン、ニスなどを使用している下地や近接した場所への施工は避けてください。変色の原因になります。

●カビが発生している場合
張り替え時、下地にカビが発生している場合は、十分にカビを殺菌し、乾燥させてから施工してください。

●浮いた裏打紙の処理
張り替え時、下地面に残った裏打紙（残紙）は剥がしてから施工してください。残紙が浮いたままで施工すると目隙などの原因になります。

施工糊と施工環境について

●施工環境に合わせた準備を

冬期など低温時には壁紙が硬くなり施工しにくくなる傾向があります。状況に合わせて接着剤の配合やうまさ時間を調整したり、部屋を暖めるなどの配慮をお願いします。特に5℃以下の環境では糊の接着力が弱く、施工不良の原因になりますので、施工糊の注意事項を必ず守ってください。

●糊付け後の注意点

壁紙の品種や室内環境に応じて、適切なオープンタイムをとってください。施工を容易にするとともに、フクレの発生を防ぎます。また、壁紙をきつく折りたたんだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折れジワが発生し、元に戻らない場合があります。

張り付け

●有効巾について

壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねしろは有効巾に含みません。有効巾を超えた使用は、左右色違いの原因となります。

●柄合わせマークの確認

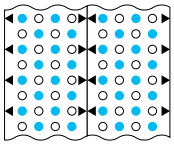
柄合わせを要する商品は、柄合わせマーク同士を目安に、柄を確認しながら施工してください。なお、製法特性上、左右の柄合わせマーク位置の僅かなズレや柄合わせマークがない場合があります。ご了承ください。

●無地貼可表示について

「無地貼可」表示は、柄合わせする方が美しく仕上がりますが、柄合わせしなくても柄のズレが比較的目立ちにくい商品を意味しています。

●柄合わせ方法について

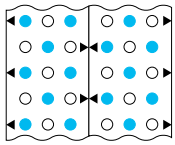
「ステップ柄合わせ」は、一般的な「平行合わせ」とは合わせ方が異なりますので、ご注意ください。



◀ 平行柄合わせ

一般的な柄合わせ方法で、左右の平行位置にジョイントマークがあります。

柄の繰り返しがあまり気にならない、小さめの柄で多く採用されています。



◀ ステップ柄合わせ

正式には1/2ステップ、もしくは、ハーフステップと呼び、タテリピート寸法を半分ずらした位置にジョイントマークがあります。

柄の繰り返しが目立つと不自然に感じやすい大きな柄で採用され、半分ずらすことによって、より自然に見えるように配慮された方法です。

●ジョイント位置について

ジョイント位置は、端部同士で施工してください。両端部と中央部では、色差が生じる場合があります。また、窓の上下など一部だけを横張りをすると、色違いが生じますので、必ず同じ方向で張ってください。

●ジョイント部のカットについて

ジョイント部をカットする際は、目隙を防ぐため、必ずカッターの刃をまっすぐに入れてください。また、地ベラを使った重ね切りは避け、定規をご使用ください。地ベラを使うと切り口が斜めになり目隙の原因になります。

●商品特性に応じた施工方法を

表面の凹凸が少ない商品はジョイントが比較的目立ちやすい意匠特性があります。突き付け施工でジョイントが目立ちやすい場合は、重ね断ち施工をおすすめします。

●石膏ボード下地の注意点

石膏ボード下地の場合、カットの際は下敷きテープをご使用ください。カッターで石膏ボードの原紙まで切り込むと目隙の原因となります。また、ボードの継ぎ目付近ではジョイントしないでください。仕上がりに支障をきたすことがあります。

●ベニヤ下地の注意点

ベニヤなどの木質下地に重ね断ち施工する場合、カッターでシーラー塗布面を傷つけるとアクの滲み出しによる変色の原因になりますので、カットの際は下敷きを使用してください。もしくは突き付け施工をおすすめします。

●三巾ほど施工した時点で状態を確認

商品検査には十分配慮しておりますが、念のため三巾ほど施工した時点で問題のないことをご確認ください。明らかに製品に欠陥があると判断された場合には、ただちに作業を中断し当社までご連絡頂けますようお願い申し上げます。三巾以降相当量の作業を進行した場合、施工費賠償の請求、商品の返品等は原則としてお受けいたしかねますのでご了承ください。

●入隅の処理は建物の構造に適した方法を

ボードやパネル下地の継ぎ目をまたいで壁紙を施工すると、入隅にフクレやよじれ・割れなどが発生する場合があります。これは、建物の構造上継ぎ目が振動の逃げ場になっているためで、避けることは出来ません。できるだけ入隅で壁紙をジョイントすることをおすすめします。

養生

●粘着性の強い養生テープは使用しない

粘着性の強い養生テープの使用は避けてください。テープの粘着剤が壁紙に固着し、変色や汚れの原因になります。また、テープを剥がす時に壁紙表面が破損する恐れがあります。

●付着した糊や汚れの処理

壁紙の表面や廻り縁などに糊、汚れがつかないようご注意ください。拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジで丁寧に拭き取り、更にきれいなタオルで拭き取ってください。特に濃色の壁紙の場合は、やさしく丁寧に拭き取った後、乾拭きせずに自然乾燥させてください。乾拭きで強くこすると傷や白化が起きやすくなります。また、糊が付着したまま放置すると、カビや変色の原因になります。

●施工後は自然乾燥を

施工後は、接着剤が安定するまで自然乾燥させてください。その間、冷暖房を強くかけ過ぎないようにお願いします。急速に乾燥させると剥がれ・めくれなどの原因になります。

●換気を十分にする

施工中および施工後一週間程度は、換気を十分に行なってください。換気が十分でないと、室内に臭いが残る場合があります。

廃棄上のご注意

●残材を焼却しない

ビニル壁紙の残材やサンプル帳を焼却しないでください。燃やすと塩化水素ガスなどが発生し、目・粘膜などを刺激しますのでご注意ください。

●壁紙の残材は適切な廃棄処理を

壁紙の残材やカタログを処理する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託してください。少量の残材を一般廃棄物（家庭ゴミ）として処理する場合は、市町村条例に基づき処分してください。なお、業者の方が廃棄する場合には産業廃棄物となりますのでご注意ください。

施工要領

特に注意が必要な商品の施工要領です。これらは、一般ビニル壁紙に比べ施工難易度が高く、施工費が割増になる場合があります。あらかじめご了承ください。
一般的な壁紙の施工方法や、壁紙全般に共通する基本的な注意点は「取扱上のご注意」をご参照ください。

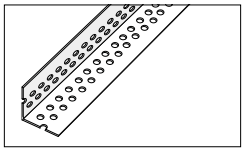
消臭＋汚れ防止　LV-3495～3557

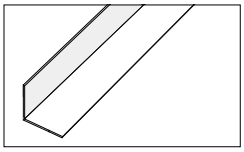
壁紙表面に、ポリプロピレン製の汚れ防止フィルムをラミネートした商品です。
一般ビニル壁紙に比べやや硬くカールしやすい傾向があり、寒冷時には出入隅部の収まりが悪くなることがあります。あらかじめご了承ください。

●低温時は室内を暖めて
5℃以下の環境では糊の接着力が弱くなり、フクレや施工不良の原因となります。また、壁紙自体も硬くなりますので、施工効率が下がります。できるだけ室内を暖めて、壁紙を馴染ませ柔らかくしてから施工してください。

●モルタル下地にはシーラー処理を
アクによる変色やフクレを防ぐため、必ずシーラー処理を行なってください。特に低温時にはフクレがおきやすくなりますのでご注意ください。

●下地コーナー材は穴あきタイプを
下地コーナー材は、穴あきタイプが有効です。穴あきタイプ以外では接着剤が乾燥せず、壁紙が浮いたり、カビ発生の原因となる場合があります。ただし、穴あきタイプをご使用の場合でも使用環境や施工状況によっては、壁紙の浮きやカビが発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

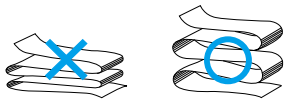

穴あきコーナー材


一般的なコーナー材

●張り付け時のカール癖
一般ビニル壁紙に比べやや硬くカール癖がつきやすい傾向があります。特に巻き芯に近い部分や寒冷時には、材料を逆巻きにするなどカール癖をとってから施工してください。収まりが悪い場合は、ジョイント部や出入隅部にエチレン酢ビ系ボンドを原液で捨て糊するなどの処置を施してください。

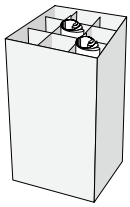
●接着剤とオープンタイム
接着剤は、濃い目（6～7割希釈）のものにエチレン酢ビ系ボンドを10～20%程度混合してください。接着剤塗布後はうませ時間を20～30分程度とってください。寒冷時には後伸びによるフクレを防ぐため少し長めにとってください。

●糊付け後のたたみ方、養生時のポイント
接着剤塗布後は大きくたたみ、上積みを避けてください。フィルムが折れてたたみジワが発生する場合があります。



きつくたたむ　　大きくたたむ

たたみジワに注意し、重ね置きを可能にするため、
一度たたんだものを丸める「丸め置き」をおすすめします。


専用ボックスは、折れジワ防止
だけでなく、運搬にも有効です。

●なで付け注意
特に、モルタル下地ではプラスチック製のヘラを使用し、ていねいに繰り返しエア抜きを行なってください。

●糊の拭き残し
施工後は接着剤の拭き残しがないよう、きれいに拭き取ってください。拭き取りが不十分な場合、変色の原因になることがあります。なお、拭き取る際は、きれいな水に頻繁に替えながら濡れスポンジなどでていねいに拭き取り、更にきれいなタオルなどで拭き取ってください。

通気性　LV-3322・3594～3606

空気や湿気を通す壁紙です。そのため、接着剤塗布後の水分の蒸発が早く、乾きやすい傾向があります。夏場は特にご注意ください。

●オープンタイムは短めに
通気性があるため、糊の乾燥が速めです。接着剤は濃い目（6～7割希釈）で、うませ時間10～15分、施工は30分以内を目安にしてください。長すぎると、相剥ぎや目開きが発生する場合があります。